

エシエリキア・アルバーティ(*Escherichia albertii*)について

食中毒事例からみるエシエリキア・アルベルティ(*Escherichia albertii* 以下*E.albertii*)の特徴と予防について取り上げます。

①2011年11月13日、秋田県内の飲食店においてスポーツ少年団の大会終了後の慰労会を開催した3校の児童および保護者等170名のうち、22名が13～15日にかけて嘔吐、下痢、腹痛、発熱等の食中毒様症状を呈した。施設従業員便16検体、患者便19検体、施設内ふきとり10検体に関して食中毒原因菌およびノロウイルスを調査した。その結果、患者便より腸管病原性大腸菌O抗原型別不能が1名、ノロウイルスが2名検出された。一方、従業員便および施設内のふきとり検体からはいずれも不検出であった。また、ノロウイルスが検出されたうちの1名から、病原大腸菌の検査に関連して*E.albertii*が検出された。

②2016年5月26日、愛知県生活衛生課から当県生活衛生課へ「沖縄県に修学旅行に行った高等学校にて食中毒の疑いがある」旨の連絡があった。当該団体376名は、5月22日～24日の日程で旅行し、食事は12施設を利用していた。376名中217名(57.7%)が有症症状を示し、主症状は下痢(64%)、腹痛(56%)、倦怠感(40%) および頭痛(38%)であった。発熱、吐き気、嘔吐はそれぞれ14%、8%、1%であった。潜伏期間は32.8時間であり、5月24日～25日に発症時間が集中する一峰性の患者発生パターンを示した。他の有症者の嘔吐物や糞便に曝露されるなどの感染症を疑うエピソードはなく、食品等による単一曝露が疑われた。管轄保健所による疫学調査、愛知県衛生研究所および当所による病因物質検査によって、当該事例はニガナの白和えを原因食品とする*E.albertii*による集団食中毒事例であると断定された。

③2016年7月、静岡県内の陸上自衛隊演習場において訓練中の隊員400人中154人が、下痢等の症状を呈していることが判明した。疫学調査の結果、患者の共通食が訓練中の食事に限られていること、患者の症状が類似していること、また、患者8人および調理従事者7人の便から*E.albertii*が検出されたこと、患者を診察した医師から食中毒の届出がなされたことから、所管保健所は訓練中の食事を原因とする食中毒事件と断定した。(①,②,③ 国立感染症研究所HPより抜粋)

(参考資料 宇都宮市HP)

【特徴】

エシエリキア・アルベルティ(*E.albertii*)は、グラム陰性、通性嫌気性桿菌であり、腸内細菌科の大腸菌に近縁の菌種です。ヒトに下痢等の消化器症状を起こします。この人獣共通感染症原因菌は、2003年に新種として正式に発表されました。今までにハト、野鳥、猫、豚、哺乳類、食品では鶏肉などからも検出されています。これまでに*E.albertii*が原因となった食中毒の報告事例は少ない。

【症状】:下痢、腹痛、嘔吐、発熱など。大半は軽症ですが、中には重症化することもある。

【発症までの時間】:16時間以降。早い場合は6時間から。長いときは数日続く。

【予防のポイント】:*E.albertii*については、一般的な食中毒予防で対応できます。

・安全な水と新鮮で良質な食材を使用しましょう。

